

令和2年度 自己評価・学校関係者評価

令和3年3月31日  
静岡なかはら幼稚園

1 幼稚園の教育目標

いきいきと やる気を持って 遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1、明るく健康な子に（あいさつ、おはよう・ありがとうなど）  
（体をいっぱい使ってあそぼう）
- 2、自立心があり周りの人のことをよく理解できる子に
- 3、身の回りの事物に関心を持つ子に（自然との関わり、園外に多く出る）
- 4、言葉をよく理解して上手に使える子に（お話をしっかり聞く、話す）
- 5、積極的に表現できる子に（自分の思いをことばや絵に）

3 評価項目の達成及び取組状況

※関係者評価の欄に記入してください。

よい 努力したい  
A - B - C - D 4段階

評価項目	結果	理由	関係者評価	意見
① 保育の計画性	B	経験のある職員が声を掛け合い、大きな行事を早めに立案できたものもあり、昨年より余裕を持って進めることができたように思う。今年度は急な変更が多々あったが、臨機応変に対応するために意見を出し合うことができたと思う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事は、天候や会場等、苦労が多かったと思う。</li> <li>・今年度はイレギュラーなことが多かったと思うがしっかりした準備の下実施したと思う。</li> </ul>
② 保育のあり方 子どもへの対応	B	個々の育ちや問題を、担任や学年担当者のみならず、全職員への周知ができるよう声を掛け合った。子ども一人一人のことを、園全体のこととして捉える認識は、今後も全職員に徹底していきたい。子どもの育ちや育ってきた環境、個性等について、多くの視点から観察をし意見交換をすること	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の為に、子どもを知る努力を、これからもしてほしい。</li> <li>・子ども一人一人の情報を、担任のみならず、全職員で共有し</li> </ul>

		で、より子どもを知るようにしていきたい。		ていこうとする姿勢は素晴らしいと思う。今後の更なる充実を期待する。
③ 教師としての資質能力、適正など	B	報告・連絡・相談の徹底は改善されてきているが、まだ十分ではないと感じる時もある。 今後、職員一人一人が、様々なことを自分のこととして考えながら協力し合えるよう、更にコミュニケーションを深め助け合っていきたい。また、危険予知や危機管理に対する意識をきちんと持つと共に、提出物の遅れ、社会人としてのマナー、一般常識等、見直さなければいけない点があることは事実であると感じる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教諭としてだけでなく、ひとりの人間として向上するように、一人一人が考えて行動することが必要だと思う。</li> <li>・更なるコミュニケーションの深化を期待する。</li> <li>・一社会人としてどうなのかという意識を持つことは有意義だと思う。</li> </ul>
④ 保護者への対応	A	今年度は行事等の変更が多く、中には直前での変更や様々なお願いをすることもあったが、ご理解とご協力をいただきありがたかった。今後も園の方針は守りつつ、保護者からのご意見を参考にさせていただきながら、保育を進めていきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な保護者がいる中保護者の立場に立った対応をしていると思う。</li> </ul>
⑤ 地域の自然や地域との関わり	B	新型コロナウイルスの影響で、田植えや稲刈りでの他園との交流、中学生の職場体験、大里中学校3年生の家庭科の授業の受け入れ、老人ホームとの交流が中止となった。また、聴覚特別支援学校幼稚部との交流保育は回数が減り、地域の方々との交流を持つことができず残念な一年だった。幼児組は相棒活動の一環として、散歩に出掛ける機会を作った。散歩に出掛ける機会が増えたことで、子ども達の視野は少し広がったように思う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お散歩をはじめたことで、地域のことに興味を持つのではないかと思う。</li> <li>・今後も子ども達に様々なことを体験させてほしい。</li> </ul>
⑥ 研修と研究	B	今年度はリモートでの研修が多く、その時間を確保することが難しいこともあったが、逆にリモートだからこその人数制限がなく参加できる研修もあった。研修には、で	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだことを活かし、職員間の情報共有をされていて欲しい。</li> </ul>

		きる限り参加させていただき、各々学ぶことはできたと思う。忙しい毎日の中で、教材研究がおろそかになってしまうことがあったので、そこは大切にしていきたい。		
⑦ 外部アンケート	A	運動会や発表会、ゆめのひろば(劇あそび)等では、様々な制限がある中での開催となり、職員は心苦しさを抱くこともあったが、保護者の皆さまからは、職員を労わることばや励ましもたくさんいただいた。これからも、子ども達にとって何が大切かを第一に、保護者と園とが協力していきたい。 未就園児対象の催し物は、例年通りの内容では開催できなかったが、できる限り園庭開放を行うようにした。毎回、数組の親子が遊びに来てくれ、未就園児対象の催し物を開催していない園が多いというお話を伺った。	A	・アンケートは、保護者や関係者の生の声を聞ける有益なツールの1つだと思う。保護者へのフィードバックを行うことで、問題点等の共有化が図れると思う。

#### 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

変則的な1年ではあったが、各学年とも重点課題はほぼ達成できたように思う。季節の事象や園内の豊富な自然に興味関心を持ち遊びに取り入れる姿も見受けられたが、自主的に遊ぶことができる時間がまだまだ少ないように感じる。音楽発表会や劇遊びでは、表現する楽しさを感じ、観ることを楽しむことができる子が増えたように思う。今後も、自分の思いや考えを自分の言葉で表現することや、生活や遊びの中で考えて試してみることを大事にしていきたい。自然と異年齢の関わりが生まれることが多々あったり、職員同士声を掛け合い助け合ったり、全職員で全園児を見守ることができた。ここ数年課題と感じている、歩くことに慣れていない子が多いということに関しては、幼児相棒活動の一環として、2学期には週1回の散歩を実施した。今後もできる限り続けていきたい活動のひとつと考える。季節を問わず、感染症対策を行っているが、気を抜くことなく細心の注意を払うようにしたい。

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	4、5月の登園自粛期間は、思いがけず保育を見直し、職員の考え方を考えるきっかけとなった。次年度は更に、今の子ども達にとって大切なことは何か、必要なことは何かを考え、全職員の教育・保育観、保育に対する姿勢、行事に対する具体的なイメージの統一が望まれる。

<p>自然環境・自然体験の整備</p>	<p>園バスだけでなく、徒歩での園外保育も積極的に取り入れていきたいと思いつつも、ほぼ実施することができなかった。園バスで出掛ける園外保育も、教育課程を考えるうえで大切なことだと感じるが、遠くに出掛けるだけでなく、園の近くで散歩を楽しむことも、考えていきたいと思う。</p>
<p>仕事の効率化に向けて</p>	<p>昨年度に比べ今年度は厳しい人員配置になったが、乳児幼児問わず職員が助け合い力を出し合うことができたように思う。職員の負担の偏りを減らすため、書類の見直し、業務分掌の見直し等を進めていきたい。また、仕事の優先順位を考えたり、教材研究をきちんとしたうえで保育準備を進めたり、報告・連絡・相談を密に行い、仕事が無駄にならない努力・工夫をしたい。</p>
<p>満3歳児保育の充実</p>	<p>3歳児1号認定児（幼稚園）数が、減っている。静岡市内のいくつかの園でも、3歳児の入園が減っていることを耳にする。保育料の無償化や働き方改革の影響もあるのか、他園の様子を聞くと、満3歳児（3歳の誕生日を迎えた翌日から入園できる）が多数在籍しているケースが多い。保育室や保育教諭確保の問題はあるが、満3歳児を積極的に受け入れ、充実させていく必要があると考える。</p>
<p>評価委員からのコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、園の運営には苦労が多々あったと思う。そのような中で、先生方は子ども達ひとりひとりに愛情を持ち、細やかな対応をされていることと思う。</li> <li>・先生方の言葉に、先生方の表情に一喜一憂する子ども達に、今後も今と変わらぬ熱意と愛情を持って接してくれることを期待する。</li> <li>・園の雰囲気も良く、先生方も子ども達のことをよく見ていると思う。</li> <li>・子ども達の明るい顔を見ると、安心して園生活を送っているんだなど、感じる。これからも、より良い保育を目指して頑張ってもらいたい。</li> <li>・今年度は、コロナ対応でいろいろ大変だったと思うが、職員・保護者の協力のもと、様々なイベントが実施できたと思う。</li> <li>・新しい生活様式に対応した、イベント開催が今後もしばらく続くと思うが、職員にはがんばってもらいたい。</li> </ul>